

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	井ノ上 了吏
主な担当科目	
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	声楽コース・声とことばの創造コースにおいて基礎的な発声法とことばの発語法をしっかりと理解させることを教育目標とする。その為に理解しやすいロジックを用いて詳細な説明を繰り返し実施し授業に臨む。
2024年の教育に関する自己評価	声楽コースの学生には、発声法の基本と応用、詩とテキストの理解する方法を教示し、成果を上げた。また、声とことばの創造コースの学生には、発声法の基本呼吸法を中心に、声とは何かを教示し理解を深め成果を上げた。
2024年のFD活動に関する自己評価	新しい時代の大学人に求められることは。この年間テーマに対して日本の今の現状、また政治、経済を通して芸術系大学の学生に求められること、またその教育につて、広がる多様な学生に対しての対応を考え活動した。また、これからの時代をしなやかに生きていくための教育とは、というテーマでは個々の生徒と向き合いそれぞれの対応、教育に心がけ活動した。
授業改善のために取り入れた研修内容	上記用いてのテーマの実施の為声楽コースの生徒には個別のレベルにあった指導、わかりやすく理解させるロジックを用いて授業の改善を図った。また中国留学生に対しては日本人学生と問題点が異なるため、その対応に対しても授業内容を改善、工夫をし実施した。新コースの学生には多くの学びについて本質を見る目を養う教育を目的とし改善し新たな授業展開を考案した。全体に、これからの時代をしなやかに生きていくための教育とは、このテーマは今を生きる学生の問題点と向き合いあ其ぞれのバックボーンを考慮し授業展開、コミュニケーションに努め改善を試みた。

2024 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2623 教員名:井ノ上 了吏

1)アンケート結果に対する所見

2)要望への対応・改善方策

3)今後の課題

学部生、声楽コースの学生に対して、1, 2年には発声の基本を徹底的に指導する。3, 4年生には歌唱表現の基本的アプローチと演奏技術を指導する。これにより自己の力で演奏を構築する力を身につけさせる。大学院オペラの学生、1, 2年に対してプロとしての視点とは何か、オペラ歌手に必要なスキルとは何か、何を基準として自分の演奏を構築していけばよいのか、考察させ自己分析実施することにより自己の歌唱表現を発見させる。新コース「声とことばの創造コース」の学生に対して声楽の学生よりさらに基本的音楽知識、特に声についての指導を実施する。今後学生たちが自分の声を発声することに対してしっかりと自信をもって人前で、話す、歌う、の基礎技術を以て表現できるようにしっかりと指導していく。以上のように、各コース、学部、大学院そのレベルに合った指導法と授業の改善を図り指導の充実を実現する。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2623 教員名:井ノ上 了吏

1)アンケート結果に対する所見

学生の出席率は高く、授業への関心も概ね良好であった。教育到達目標の理解度や達成度についても「そう思う」「少しそう思う」が多数を占めており、授業内容が学生の学びに貢献していることが確認できた。一方で、授業外学習時間にばらつきが見られ、学習習慣の定着には課題が残る。

2)要望への対応・改善方策

学生からの自由記述や選択肢回答を踏まえ、以下の改善を検討する。

- ・授業外学習の促進のため、次回より課題提出の頻度と質を調整し、予習・復習のガイドラインを明示する。
- ・シラバスの内容と授業の関連性をより明確にするため、毎回の授業冒頭で到達目標を確認する時間を設ける。
- ・声楽の実技指導においては、個別フィードバックの時間を増やし、学生の自己表現力向上を支援する。

3)今後の課題

- ・授業外学習時間の確保と習慣化を促す仕組みづくり。
- ・学生の多様な学習スタイルに対応するための教材の工夫。
- ・教育到達目標の達成度をより定量的に把握するための評価方法の見直し。

以 上